

# おかのうえ D.I.O TABLE

できるだけ いろんな人と おしゃべり

レポート vol.01

## 開催概要

日時： 令和7年10月26日（日）10:00～12:30  
 場所： 平山台健康・市民支援センター 1階エントランス  
 主催： 日野市  
 協力： studio-L



第1回「おかのうえ D.I.O TABLE」が開催され、18名の市民のみなさんが参加されました。本ワークショップでは、平山地域の未来を、平山台健康・市民支援センターのこれからを考える目的で2ヵ年を通して実施されます。キックオフとなる第1回目では、本事業に至った経緯や施設跡地の活用にかかるコストなどについて説明がありました。また、ゲストトークを通して対話ではじまるまちの未来について学び、グループごとに平山地域の未来について話し合いました。このレポートでは当日の様子をお伝えします。

## プログラム

- ✎ 開会あいさつ  
（日野市企画部企画経営課 小野 安弘さん）
- ✎ 本事業について
- ✎ 本ワークショップについて
- ✎ ゲストトーク「対話ではじめるまちの未来」  
➢ （studio-L 醍醐 孝典さん）
- ✎ 自己紹介と個人ワーク  
「わたしの未来を考えよう！」
- ✎ グループワーク  
「平山地域の理想の暮らしを考えよう！」
- ✎ 共有
- ✎ 今後に向けて
- ✎ 閉会

## 本事業について

平成20年に開設された平山台健康・市民支援センターは、建物の老朽化から令和10年度末をもって供用停止が予定されています。それに伴い、昨年度より「おかのうえプロジェクト」と銘打ち勉強会を開催し、施設の跡地活用について検討を進めてきました。今年度より方針検討業務やサウンディング調査を実施し、令和9年度に基本計画を策定予定です。跡地活用方針や基本計画の策定にあたっては、日野市公共施設等総合管理計画の方針のもと、施設総量は縮減しつつも公共サービスを充実させていく「**補充**」の発想や公民連携の積極的な活用等を踏まえて検討を進めていきます。

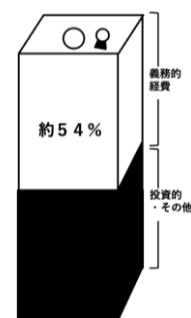
### 今後のスケジュール

本プロジェクトがスムーズに進捗した際の見込みスケジュール

R7	跡地活用サウンディング調査 方針検討業務（ワークショップ等）
R8	方針検討業務（ワークショップ等）
R9	基本計画等策定予定（サウンディング調査含）
R10～	基本計画等に基づく跡地活用の準備開始

※令和10年度末に施設閉鎖予定

### 逼迫した財政状況



自治体が使い道を決められるのが一般会計。そのうち、投資的経費・その他経費が自由に使えるはずが

- ・社会インフラの更新費用が年々増加
- ・公共施設の維持管理費が年々増加

→実質的に用途が決まっている経費が増加。新しいことに対応するお金が少ない（＝財政の硬直化）

## 本ワークショップについて

「おかのうえ D.I.O TABLE」では、2年間かけてセンターの跡地活用についての方針案を決めていきますが、今年度は学びや対話を重ねながら跡地活用の方向性をみなさんと考えていきます。来年度からは、具体的な機能や仕組みについて、先進事例の視察なども行いながら検討していきたいと思っています。（D）できるだけ、（I）いろいろな人と、（O）おしゃべりする場にしていきましょう！

<今年度のスケジュール>

- 第1回** 2025.10.26.(日) 10:00 - 12:30  
 テーマ「平山地域のこれからの暮らしを考える」  
 オープニングトーク「対話でつくるまちの未来」  
ゲスト：(株)studio-L 醍醐孝典さん
- 第2回** 2025.11.30.(日) 10:00 - 12:30  
 テーマ「実現したい未来から、センターのこれからを考える」
- 第3回** 2026. 1. 11.(日) 10:00 - 12:30  
 テーマ「他地域の事例を学び、アイデアを広げる」
- 第4回** 2026. 3. 21.(土) 午後（調整中）  
 テーマ「今年度の対話をふりかえり、来年度を考える」

## ゲストトーク「対話ではじまるまちの未来」

studio-L の醍醐孝典さんによるゲストトークがありました。人口減少や高齢化といった私たちを取り巻く時代潮流から、これからの時代の公共空間づくりの事例について紹介がありました。

### 【時代潮流】

日本全国の自治体で人口が減少に転じていき、それに伴い税収や行政サービスが低下していく中で、**公共的な場や空間をみんなで協力してどのようにつくっていくか**問われています。予測できない世界的な状況による影響も含めて民間活用も万能ではありません。VUCA 時代（**将来の予測が困難な現代社会**）や AI による加速度的な進化も暮らしに影響してくるでしょう。

### 【対話の重要性】

地域の暮らしを良くしていく、地域の課題を解決していくためには活動の場だけでなく、**みんなで考えを共有することが必要になってくる**と思います。対話をしていくと**新しい学びや発見があり、行動が変わることで未来の自分の暮らしや生活にも変化を与え、相対的に地域づくりにもつながっていきます**。

### 【対話と市民参加で取り組んだ全国の事例】

#### 十日町まちなかステージ（新潟県）

- ・まちの中心市街地に市民の活動拠点をつくる取組み
- ・市が格安で譲渡した古ビルをリノベーションを活用して整備
- ・施設がオープンする前から「カッドウ部」として活動を展開
- ・活動を楽しむ市民の増加→まちの課題解決→理想の暮らしへ



#### 泉佐野丘陵緑地（大阪府）

- ・大阪府営の公園を最低限のハード整備以外は予算をかけずに、時間をかけながら少しずつ公園をつくっていくという発想の転換
- ・パークレンジャー講座が開講し、修了生約 100 名が活動している



#### 富岡市世界遺産まちづくり（群馬県）

- ・富岡製糸場の世界遺産登録に伴うまちづくりの取組み
- ・ワークショップを通じてチームをつくり、まちなかで活動
- ・既存の建物の活用した拠点づくり
- ・空間ありきではなく体制や仕組みから活動に移していく発想の転換



### ポイント！

- ・自分の未来の理想の暮らしや活動とつなげて考え、対話を通じて仲間と共有すること
- ・自分の中の「大いなる公共心」とも対話してみること（まだこの世に生まれていない日野市民のことも考える）
- ・そのうえで、理想の未来につながる「美しく 小さな第一歩」についても対話し、はじめる



醍醐 孝典（だいが たかのり）  
株式会社 studio-L / 総務省地域力創造アドバイザーなど  
全国各地の公共施設の計画・運営における市民参画等を支援。



## ワークショップをすすめるにあたって

話し合いに入る前に、対話を進めるうえで大切にしていることと話し合いのルールについて共有がありました。参加した人が気持ちよく自由な発想で話し合えるよう守っていきましょう。

### おかのうえ D.I.O TABLE が大切にしていること

1. 誰もが楽しく、お互いの考えをフラットに話し合えること
2. 先進事例や対話から学び合い、新たなアイデアを出し合うこと
3. 10年、50年先を見据えた未来を描くこと

### 話し合いの5つのルール

- 1 討論ではなく対話をしましょう。相手の話を否定することや、自分の意見を押し付けないこと。
- 2 意見が異なる場合でもしっかりと耳を傾けて聞きましょう。
- 3 最後まで聞きましょう。
- 4 皆の発言機会を均等にするように心掛けましょう。同じ人だけが話さないこと。
- 5 声の大きな人、立場のある人、年上の人、弁が立つ人ばかりが話をする場にしないようにしましょう。



## わたしの未来を考えよう！

自己紹介をしたペア、またはテーブルメンバーで「未来の私の暮らしシート」を使いながら、これから平山地域でどう暮らしていきたいか未来の年表をつくり、お互いの年表を見比べて共通点などを探しました。



## 平山地域の理想の暮らしを考えよう！

5年、15年、30年後、平山地域でどのように暮らしていきたいか、どこでどんなことをして過ごしているか具体的に想像し、吹き出しカードに書き出しグループ内で共有しました。共通する意見があったり、話し合うことで新たな意見も生まれたりしました。次ページで各グループの意見交換の結果を紹介します。



5年後

近い未来

10年後

少し先の未来

30年後

もっと先の未来

テーブル1

- 高齢者から子どもまで交流が増えている
- ・ 孫と楽しめる定期的なイベントがある(2)
  - ・ 子ども達とアウトドアライフを楽しむ
  - ・ 子供たちが気軽に安心して遊べる公園がある
- 空き家を活用した居場所や気軽に集まることのできる場所
- ・ 空き地の活用が進んでいる
  - ・ 下校後の児童が立ち寄れる遊び場、休憩所がある
  - ・ 男性が集まれる場づくり(3)
  - ・ 自由に使える拠点がある
- やりたいことをやれる場、環境がある
- ・ 空き地を活用
  - ・ 庭びらき
  - ・ まちなかに休憩できる場がある
- 外出したくなるまち、つながりのあるまち
- ・ 家に引き込まらずにできるだけ外に出て社会との接点をもつ(2)
  - ・ 健康的で自立した生活を送っている
  - ・ いくつになっても新たな知人が増えている

まちに集える拠点と機会があり外出したくなるまち

テーブル2

- 平山地域の暮らしが健康につながる
- ・ 自由に移動して買い物ができる
  - ・ 坂道をものもしない生活
  - ・ 医者にかからない暮らしができる
- 助け合う関係がある
- ・ 人と人をつなぐ
  - ・ 自分のつながりを若い世代へ引き継ぐ
- ペットフレンドリーなまち
- ・ ペットを通じた友達づくり(2)
  - ・ 交流から小商いまで生まれるまち
- 農でつながる
- ・ 食育に取り組んでいる
  - ・ 畑や農のある生活
  - ・ お菓子などをつくって提供できる
- 気軽に立ち寄れる拠点がある
- ・ 会いに行きたい人がいる
  - ・ そこに行けば何かがある
  - ・ この場所で採れた作物を料理してみんなで食べられる
- 友達がいる
- ・ 友達に会いに行く
  - ・ 自宅にお茶しに来る人がいる

ペットも人もつながり食を通して健康になるまち

テーブル3

- 文化的な活動が継続している
- ・ スポーツクラブ、文化教室などが続いている
  - ・ トレッキングクラブで山歩きと温泉
- 子どもから大人まで気軽に集まれる交流機会
- ・ みんなで料理や食事・お茶会をする(3)
  - ・ 世代を超えて仲間・友だちが増える(2)
  - ・ いい仲間といい思い出をつくり余生を楽しむ
- 子育てしやすいまち
- ・ 子育て世代、子どもたちへの支援がある
  - ・ 誰でも来れるプレイパークがある
  - ・ 互いに気かけ合えるコミュニティ
- みんなで学び合える環境
- ・ 市民大学など地域の人が講師をしたり一緒に勉強する場がある
- 自然と人が集まるまち
- ・ 楽しいから人が集まる、集まるから仲間が増える
  - ・ 平山の住民が増える

学びや楽しさが巡り人が集まるまち

テーブル4

- 日常の中で触れ合いのある場(ケ)
- ・ 大人が集えるお酒も飲めるカフェでおしゃべり(2)
  - ・ 孤立せず、外出を楽しめる場がある(2)
  - ・ 住民同士が顔見知りになれる機会がある(2)
  - ・ 近隣公園をつないで歩くのを楽しめる
- イベントがあるまち(ハレ)
- ・ 仲間とイベントを開催
  - ・ 人がうらやままちづくりに自ら取り組む
  - ・ 坂道を活かしたまちづくり(湧水活用、流しソーメン)
- ペットと楽しく暮らす
- ・ 犬関係で副業して暮らしたい
  - ・ ペットコミュニティが充実(2)
- 災害に備えたまちづくり
- ・ 災害があっても安心して過ごせる避難場所がある(2)
  - ・ 災害があっても自立している
  - ・ 顔がわかって助け合える(2)
- 子どもの声が聞こえるまち
- ・ 子どもたちの元気な声が聞こえる
  - ・ 地域の子どもたちとふれあう機会が多い
  - ・ 子どもたちや孫たちが住んでよかったですと思える

ハレとケを楽しみ、安心して生活できるまち

テーブル5

- 仕事がある・生み出すまち
- ・ 仕事を生み出して作り続ける(2)
  - ・ いつまでも仕事が続けられる
- 楽しい活動と場所があふれるまち
- ・ 大人の部室と部活がある(ディスコ、読書、ディベートなど)(4)
  - ・ 仲間と一緒に活動をしている(音楽、試写会、市民農園など)(6)
  - ・ お金をかけずに楽しめる
  - ・ カフェや居酒屋風など飲食を楽しめる場がある(3)
- 友だちが増えるまち
- ・ 全国各地から知人を招く
  - ・ 年の離れた友人がいる(3)
  - ・ 友人と集える場所がある
- 安心して移動でき、楽しめるまち
- ・ 自動運転で自分の行きたいところに移動できる
  - ・ 安心して歩ける、行ける技術、システムがある(2)
  - ・ 地域のことももっと知る
  - ・ 楽しみを見つけて歩いていける
- 友人・家族のような助け合い
- ・ 迷惑をかけてもよい関係性がある
  - ・ お互い様で助け合える近所づきあい

楽しい活動を自ら生み出し、助け合える関係性のまち

各テーブルの発表から

どのテーブルからも、住民同士の交流、自分たちの楽しみや学びを共有する文化活動が地域で行われていることが共通して出されていました。また防災や安心して歩けるまちづくり、ペットフレンドリーなまちづくりなどの提案もありました。次回以降、この理想の暮らし(将来像)を実現させるためにどんな取り組みがあると良いか、そしてそれがどこで実施されていると良いかを考えていきましょう。



studio-L  
洪 華奈さん